

# 『ふろむ・マラウイ』～番外編3 マラウイと宮城県の取り組み ～

29th /February/2016 第40号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ: チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

マラウイでは、例年11月下旬頃から雨期が始まります。しかし、地球規模の気象変動の影響からか、2014-2015 シーズンは、大規模な洪水に見舞われました。今年の2015-2016 シーズンは、雨期が大幅に遅れています。2016年1月になってやっとまとまった雨が降り始めました。主食のメイズ(トウモロコシ)の生育は、良いとは言えない状況だと思えます。地域毎に収量の差が生じる懸念もあるでしょう。食糧不足となった場合、道路インフラの整っていないマラウイでは、地域差を埋めることは大変な事です。

宮城県では草の根技術協力事業において、マラウイから政府職員を招聘し、研修を実施しています。研修の一つに『粗朶工法』の製作実習を行っています。粗朶工法とは、粗朶材(木の枝や竹等)を用いて、河川堤防の護岸や、灌漑施設の護床を行うものです。これを学んだ研修員は、マラウイに持ち帰り、同僚や農民に指導しながら、水害への備えや、灌漑施設の長寿命化に取り組んでいます。これまで、事業実施において、築いた信頼関係を元に技術移転が進んでいます。さらにマラウイに適した技術として成熟するよう、宮城県は今後も支援していく予定です。



日本での研修の様子



研修員が農民に技術を伝え・実践しています!

マラウイ人の笑顔が絶えることのないよう、安定的な農業生産と農村の生活向上に寄与する技術移転を継続し、マラウイ国政府と宮城県は手を携えながら今後も活動していきたいと考えています。

